

ドライブレコーダーシンポジウム Drappli 2016

交通事故のトラブルをなくせ。劇的に普及するドライブレコーダー活用の挑戦！



日時 2016年12月13日(火) シンポジウム 13:00~17:50 意見交換会 18:00~19:30

会場 日本大学 理工学部 駿河台校舎 1号館6F CSTホール

プログラム

12:00 開場 司会 鳥塚俊洋(ドライブレコーダー協議会理事)

12:50 - 13:00 開会挨拶 松浦 春樹(神奈川大学 教授、工学研究所高安心超安全交通研究所[KU-WIRF] 所長)

第1部【講演】 13:00 ~ 15:00 (各講演には質疑応答10分を含みます)

13:00 - 13:30 大慈彌拓也(日本交通事故鑑識研究所) 「ドライブレコーダー 映像活用による効果的安全教育」
13:30 - 14:00 平井隆志(国土省自動車局安全政策課 課長) 「軽井沢スキーバス事故から」
14:00 - 14:30 竹村公一(SOMPO リスクアマネジメント株式会社自動車コンサルティング事業部 特命部長)
14:30 - 15:00 岡本 努 警視正(警察庁運転免許課高齢運転者支援室長) 「事故防止に向けたドライブレコーダーの活用事例」
「高齢者講習へドライブレコーダーの活用」

第2部【一般社団法人ドライブレコーダー協議会報告】 15:00 ~ 15:30

15:00-15:30 ドライブレコーダー協議会の一般社団法人化 小林敏雄 (ドライブレコーダー協議会代表理事)
ドライブレコーダー協議会の活動報告 尼野 良 (ドライブレコーダー協議会事務局)

休憩 15:30 ~ 15:50(20分)

第3部【講演】 15:50 ~ 16:50 (各講演には質疑応答10分を含みます)

15:50 - 16:20 相川春雄(東武バスセントラル株式会社 取締役社長) 「バス業界の取り組みと成果」
16:20 - 16:50 山田貴範(豊田通商株式会社化学品・エレクトロニクス本部次世代モビリティ事業推進部
テレマティクス事業グループ 課長代理) 「V2X(車と車・路側機・人が通信する安全支援システム)の普及にむけて」

第4部【パネルディスカッション】 16:50 ~ 17:50

テーマ:「交通事故のトラブルを無くす為に、ドライブレコーダーをどう活用できるのか?」

司会進行: 龍 重法(ドライブレコーダー協議会業務執行理事)

16:50 - 17:50 パネルディスカッション パネリスト: 第1部、第3部 講演者

17:50 閉会挨拶 吉本堅一(ドライブレコーダー協議会監事)

【意見交換会】 18:00 ~ 19:30 ※希望者のみ・参加費3,000円

司会: 新堀 聡 (日本ユニシス株式会社 戦略ロジスティック部 部長)

会場: 日本大学理工学部1号館2階カフェテラス

【ドライブレコーダーシンポジウム ドラププリ 2016】

主催: 神奈川大学工学研究所 高安心超安全交通研究所(KU-WIRF)・一般社団法人ドライブレコーダー協議会

後援: 国土交通省・一般社団法人日本人間工学会・公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団・公益社団法人自動車技術会・独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)・一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)

神奈川大学 工学研究所 高安心超安全交通研究所 (KU-WIRF、ケーユー・ワーフ)

わが国が世界に誇る新幹線は、東海道新幹線が1964年に開業してから昨年の列車内火災事故が起こるまでの51年間、乗車中の乗客の死亡事故はありませんでした。しかし、同期間の自動車事故による24時間以内の死亡者数は約50万人に上り、その差はあまりにも大きいものです。2008年10月に神奈川大学に設立され8年を経た高安心超安全交通研究所(KU-WIRF; Research Institute for Kanagawa University Well-Informed and Risk-Free Transportation)は、この新幹線の安全技術思想(高度に人間支援に徹した人間中心セミオートシステム)を大いに参考にしています。本研究所は、多発する自動車事故の効果的予防安全を意識して運輸省(当時)が1999年に提案し、その後、民間企業各社から業務用製品が発売されて現在一般の自動車にも急速に普及しはじめている映像記録型ドライブレコーダーをこれらの市販当初から活用し、自動車の安全性を向上させるために研究活動を続けています。

一般社団法人 ドライブレコーダー協議会

一般社団法人おドライブレコーダー協議会は、ドライブレコーダーを用いて交通安全を達成する目的で、日本国内のドライブレコーダーメーカーや関連する業務に従事される方々に参加いただき、ドライブレコーダーの基礎技術および応用実践技術の発展を目的に積極的に活動する一般社団法人です。2011年に任意団体として発足して以来、6年を経て本年10月に一般社団法人に移行いたしました。本協議会では、我が国では昨年までで事業用車両・自家用車両等を合わせて、すでに500万台以上のドライブレコーダーが稼働していると推定しています。このような状況の下、本協議会では、これまでに一般の消費者がドライブレコーダーを購入する際の選択を容易にするためのドライブレコーダー仕様表示ガイドラインの策定や、万一の事故後も引き続きドライブレコーダーを装着していただくための「交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度」の導入などを行ってきました。さらに、協議会のこのような活動を活性化させ社会的責任を果たせるように邁進してまいります。

ドラブリについて

本シンポジウムの名称「ドラブリ」は、「ドライブレコーダー・アプリケーション」からの造語で、「ドライブレコーダーデータの実践的な利用・応用・活用」という意味です。

わが国においてドライブレコーダーは、交通事故やヒヤリハットを客観的に記録、分析できる装置として、タクシー、バス、トラックなどの公共交通を中心に普及し、様々な活用されております。また、2016年の軽井沢スキーバス事故をきっかけに、ドライブレコーダー装着の必要性が見直され、国土交通省で貸切バスへの設置義務化の方針が決定されております。個人での活用では、スマートフォンゲームアプリ「ポケモンGO」プレイヤーとの接触事故などを警戒して装着する等、思いもよらない要因によって装着率の向上へ繋がり、駐車中の防犯用録画などの多様な活用と相俟って、ドライブレコーダーの市場は拡大し続けております。また、自動運転車には、ドライブレコーダーが必須になるとも言われています。

こうしたドライブレコーダーの社会的・経済的・文化的な環境を背景に、その活用・取組内容と成果などについて発表の場を設け、交通事故の劇的削減に向けて、安心・安全・快適な社会の構築に対してどのようなインパクトを与えられるかについて参加者が一堂に会し、考え討論していくことを目的に毎年シンポジウムを開催しています。

今回のテーマ 交通事故のトラブルをなくせ。劇的に普及するドライブレコーダー活用の挑戦!

毎年、自動車交通における最近の話題を考慮し、様々な交通社会における課題に対してドライブレコーダーがどのような関係を持ち、今後どのような役割を持つのかという視点でテーマを検討しております。今年のテーマでは、劇的な普及を見せているドライブレコーダーが、交通事故の削減や交通事故のトラブルの削減にいかに関与できるか、また、どう活用していこうとしているのかをキーワードに、広がる活用分野ごとに、基本に立ち返る形で活用の取組内容の発表を行い、そこから、改めて今後のドライブレコーダーの役割と、あるべき社会を見つめ直すことといたしました。

開催実績

- 2009年 第1回 KU-WIRF 設立記念・テーマ「交通事故と予防安全 - ドライブレコーダーとその応用技術 -」
- 2010年 第2回 テーマ「ドライブレコーダーを活用した安全な自動車社会の実現に向けて」
- 2011年 第3回 テーマ「交通事故の劇的削減 ドライブレコーダー活用実践」
- 2012年 第4回 テーマ「多様化するドライブレコーダー応用」
- 2013年 第5回 テーマ「ドライブレコーダーのビッグデータ」
- 2014年 第6回 テーマ「高齢者とドライブレコーダー」
- 2015年 第7回 テーマ「ドライブレコーダーと自動運転(高度運転支援)」
- 2016年 第8回 テーマ「交通事故のトラブルをなくせ。劇的に普及するドライブレコーダー活用の挑戦！」